



深草徹の“ここがポイント”

コロナ禍から学ぶ“新自由主義”の克服

深草 徹



世界の国々で労働組合運動が弱体化し、労働法制や社会保障・社会福祉制度は掘り崩され、医療と公衆衛生のための施策も後退を重ねてきました。税制は今や、消費税なる大衆課税が大きなウェイトを占め、優遇税制のおかげで富裕層・大企業が我が世の春を謳歌する一方、その日の生活にも事欠く大量の絶対貧困層が生み出され、所得中位層も没落と貧困化を進めています。国や地方自治体は、行革・民営化を推進し、命と暮らしを守る部門は縮小されてしまいました。これらは新自由主義がもたらしたものです。

感染症対策においても、新自由主義の害毒は、世界と日本の現状を見れば明らかでしょう。わが国で、新自由主義がどのような害毒を流し続けてきたか、それを克服するためにはどうすべきか、昨年7月の参院選挙で共産党が発表した「感染症の発生・拡大・重症化を防止する施策を国の責任で推進します」は、それに対する解を示していました。その一部でも政府が実施していたら、新型コロナウイルスとの戦いは、もっと有利に押し進めることができたでしょう。新型コロナウイルスは、私たちに新自由主義を克服することを求めているのです。

(深草憲法問題研究室主宰、九条の会. ひがしなだ共同代表)

平和随想

裁判を受ける権利の回復を

高橋武三

「一人ひとりが大事にされる災害復興法をつくる会」<https://hitorihitori.jp/> のホームページに、『COVID-19：一人ひとりの基本的人権の保障を求める提言（緊急提言4）』があります。そこに「2裁判を受ける権利を回復する必要があります」との提言があります。

新型コロナ感染予防のために、全国各地の裁判所は、業務や審理期日を取りやめたりしています。しかし、国民の裁判を受ける権利（憲法 32 条）は重要な人権であり、「現在の裁判所の機能不全状態は、人権の危機といっても過言ではありません」と指摘。

感染拡大を防止しつつ、「速やかに司法機能を回復し、裁判を受ける権利の保障を正常化させるよう求めます」と結ばれています。

私は、原発賠償や神鋼石炭火力発電所建設稼働差止訴訟など、多くの裁判傍聴に参加し、その期日の取り消し等を実感しています。

こうした提言は、本当にありがたいことです。

(神戸の石炭火力発電を考える会)

神戸市は個人情報 を 自衛隊に 電子データで提供しないで！！

三好 正子

私たちは昨年 10 月、神戸市が自衛隊に、隊員募集対象者名簿の提供を考えている、という情報を得て以降、市長への手紙で反対の意見を届けたり、弁護士と相談し、諸団体との共同で、協力中止の申し入れなどの諸行動を重ねてきました。

その過程で、神戸市長は、個人情報審議会の意見を聞くこともなく、独断で協力表明していたことが分かりました。

神戸市長自ら、自衛隊員募集に、個人情報の提供で手を貸すとは？

自治体は本来、市民の個人情報を守るべき立場なのに、その義務を放棄するとは、どうてい許せることではありません。

災害時に、救援活動をしてくれる自衛隊の姿は、全体の一部でしかありません。「専守防衛」と言っていたのに、今では、米軍の言いなりに、海外演習に行ったり、米軍の支援で海外派兵する「軍隊」に変容しているのが、自衛隊の実態です。

将来ある若者の個人情報を提供し、私生活を脅かしては、なりません。

皆さんの多くの声を、神戸市へ届けましょう。

「個人情報を、電子データで自衛隊に提供しない」ことを、求めましょう。

(9 条の会須磨区連絡会事務局長)

檻の中のライオン憲法講座【応用編④】〈最終回〉

檻にカーテンをつけるライオン～特定秘密保護法など

椋 大樹

主権者国民は、政治に関する様々な情報を知ることによって、政治のことを判断することができます（知る権利、憲法 21 条）。しかし、権力者は、批判を受けそうなことを隠そうとしがちです。

2013 年に特定秘密保護法が成立しました。行政権が恣意的に秘密指定をすることで、民主主義や三権分立といった憲法の屋台骨を壊れる心配があります。

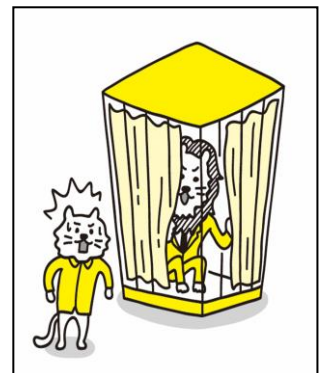
この他にも、自衛隊日報の隠蔽、森友問題の文書改ざん、憲法 53 条に違反して臨時国会を開かず野党の追及から逃げる、桜を見る会の名簿破棄など、同じようなことが次々起こっていないでしょうか。

ライオン（国家権力）がカーテンを都合よく開け閉めして民意をコントロールするようになったら、もはや民主主義とは言えません。

憲法の基本原理が壊れないよう、不断の努力（12 条）が大切です。

参照『檻の中のライオン 憲法がわかる 46 のおはなし』椋大樹著

(はんどう・たいき、明日の自由を守る若手弁護士の会、ひろしま市民法律事務所)



「火垂るの墓」誕生の地に記念碑 6月7日、西宮震災記念公園で除幕式

兵庫県ゆかりの作家・野坂昭如の直木賞受賞作品「火垂るの墓」の記念碑がこのほど、西宮震災記念公園の一角に完成し、6月7日に現地で除幕式が行われる予定となっています。

自らの神戸での戦争体験をベースに、戦災孤児となった14歳の清太と4歳の妹・節子の過酷な物語は、小説だけでなく、アニメや実写版映画などでも、広く知られています。

神戸では灘区と東灘区の境目あたりを流れる石屋川の下流、小説にも描かれた御影公会堂南側の防災公園内に、アニメの一場面を描いた石碑があります。一方、主人公が実際に暮らした西宮のニテコ池周辺の住民や学校教員らが中心となって、当時の防空壕や身を寄せていた「おばさん」宅などを綿密に現地調査。さらには、実行委員会による全国的募金活動とも併せて、野坂の自伝小説「火垂るの墓」誕生の地での記念碑建設運動を進めてきました。

用地は、西宮市が震災記念公園の一角を提供し、中央の小説火垂るの墓誕生記念碑は、高さ2・2メートルの自然石に刻銘し、両脇には作家自身の戦争体験や小説を紹介する碑を配しています。

6月7日の除幕式は、コロナ禍に配慮して参加者は関係者に絞り、質素な式典となる模様です。



私のひと言

共通の「敵」と闘おう ～「新型コロナウイルス」と「日本国憲法」～

高橋精巧

日本国憲法前文に平和的生存権、「われらは全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する」の行があります。「恐怖」は戦争や核兵器を思い浮かべ、「欠乏」は貧困や格差を思い浮かべます。新型コロナウイルスの大流行は、この恐怖に該当し、同時に貧困や格差拡大に繋がっていきます。グローバリゼーションにより、物と人が世界中を駆け回ると同時に、ウイルスもそれに付随して、目まぐるしい勢いで時空を超えて蔓延します。

一方で、ウイルスと闘っていくために、ウイルスのゲノム解析のデータ共有など、世界中の医学者や科学者の間で情報連携ができ、早期のワクチンや抗ウイルス薬の開発にも繋がってきます。国家間の戦争と異なり、新型ウイルスとの闘いは、全人類が一致連携する機会となっています。マルクスのいう「階級闘争」は別として、対新型ウイルスとの闘いは、イデオロギーを超えて共通の「敵」と闘っていくしかないことを、教訓としています。ここに日本国憲法の前文が蘇ってくるように感じます。

(さよなら原発神戸アクション)

終わり良ければ繕て良し “看取りの共同体”をつくりましょう

北嶋 佳寿子

今回のコロナ騒動で、見えて来たものは多い。病院での検査・受診もままならなくなった。いざという時に困り果てるほど、医療分野でも「新自由主義」が進められていた。高齢者にも、在宅での看取りが勧められることになる。

さて、在宅での看取りが十分にできる家庭が、どれほどあるのだろうか。「老老介護」も珍しくない。子供も遠くにいて、臨終にも間に合わない。ヘルパーさんの仕事も、1時間から45分に減らされている。

条件が厳しい中でも、かつて団塊世代は、必要なものは保育園・学童保育など、自分達で力を合わせて、創り出してきた。いよいよ人生の終末を迎えるにあたって、憲法に保障されている人権・尊厳を守るべく、それぞれの持てる力・特技を活かして「共同の看取り」が実現できたらいいな、と思う。

どのように生き、どのように最期を迎えたいのか、それぞれの思いを出し合うことから始めませんか。これまでの終末医療に学び、さらに医療・介護の専門家だけでなく、普通の人の地域での支えがあれば、と願ってやまない。

(東灘区森北町在住)



紫金草（平和を願う花）

住吉山手から

カザルスのお母さん

公庄 れい

1973年発行の『パブロ・カザルス 喜びと悲しみ』の文中、カザルスは深い愛情と尊敬を込めて、母を語っている。

ナチスと結託したフランコが、スペイン中を蹂躪した時、カザルスは音楽で、ピカソは画で、フランコと戦った。カザルスの母は常々言っていた。「私は法律を重んじないのが主義ですよ」。弟のエンリケが19歳になった時、当時の法律によって、スペイン陸軍から召集令状が来た。弟は母の所に来た。私はちょうど居合わせたので、あの時の光景が、記憶にはっきり残っている。

「エンリケ、お前は誰も殺すことはありません。誰もお前を殺してはならないのです。人は、殺したり、殺されたりするために生まれたものではありません……。行きなさい。この国から離れなさい」。それで、弟はスペインを出て、アルゼンチンに渡った。

もし、これが戦時下の日本だったら多分、家族も無事では済まなかったであろう。俳優の三国連太郎も、召集令状が来た時、逃げた。軍に彼の居場所を教えたのは、母親だったという。

(孫たちの将来を案じるお婆ちゃんの会)

カンパの郵便振替口座

口座記号 00900-6
番号 217129
名義 九条の会. ひがしなだ



(N生)

編集後記
「緊急事態宣言」が
ようやく解除されま
した。しかし第2、
第3の波が心配され
ています。
これからも“コロナ
以前とは異なる日
常”が続くことにな
りそうです。